

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193900014		
法人名	社会福祉法人 さきたま会		
事業所名	羽生市もくせいの里		
所在地	埼玉県羽生市下手子林691-2		
自己評価作成日	令和2年8月3日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和2年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、認知症の高齢者の住み慣れた地域で暮らし続けられるよう考え、支援しています。
 個人の家を改築し、庭には四季折々の野菜や花を栽培し、今まで暮らしていた家のように過ごして頂いています。そのため、食卓には採れたての野菜を調理したものや季節の花を飾り楽しんでます。
 基本方針、心豊かに 明るく 健やかに 長生きをして本当によかったと思える暮らしを 基本に職員の確保・養成を行いつつ、利用者の日々の暮らしを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・広い庭に菜園をつくり、なすやトマトなど多種の野菜や花を栽培するほか、数羽の鶏を飼い、野菜と卵を調達し手作りの家庭的な美味しい食事が提供されている。また、うどんやおはぎ、漬物などを手づくりされるなど、利用者の食の楽しみを大切に支援に取り組まれている。
 ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告、事業所の取り組みについての評価、感染症対策や地域交流についてなど、幅広い内容での話し合いが行われ、有意義な会議運営をされている。
 ・目標達成計画についても、定期訓練では家族や地域の方の協力を得て、台所からの火災発生を想定した、初期消火・通報・避難誘導などの基本訓練への取り組みのほか、水や食料、ガスコンロなど、備蓄品の整備を図られるなど、体制整備に努められていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りなど職員が集まる機会には理念の確認を行っている。	「心豊かに明るく健やかに、長生きをして本当に良かったと思える暮らし」の理念のもと、不安や寂しい思いをさせることなく、優しく、愛情溢れるケアに努め、利用者が明るく心穏やかに過ごされるよう支援をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の授業の一環として認知症サポーター養成講座を行い、児童との交流を行っている。また、地域の文化祭や市民健康福祉祭りに参加したりし、地域の交流を図っている。	同法人の介護老人福祉施設利用者との交流のほか、散歩や外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、小学校や地域の催事に出かけられるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の理解や支援方法を理解していただくために地域の文化祭に参加したり、地域の小学5年生を対象に認知症サポーター養成講座を行い、オレンジカフェも定期的に開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政側や地域の方々と連携を図り、利用者へより良いサービスが支援できるように話し合いが行われている。	運営推進会議では、事業所から利用者の暮らし振りや活動報告のほか、参加者からは感染症対策や地域交流についてなど、幅広い内容での意見交換が行われ、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの内容に変更などがあった場合は、行政と連絡をとりあいながら、利用者のサービス向上に取り組んでいる。	行政の担当者には、運営推進会議でアドバイスをいただいたり、申請手続き時や介護支援専門員の会議などの機会にコミュニケーションを図られ、良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則施錠はしない。利用者一人ひとりの日々の身体・精神状態を把握し、見守りながら支援している。	身体拘束適正化委員会が定期的実施されているほか、内部研修も行き、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会に参加したり、研修報告により、職員研修を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、研修報告による職員研修会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその家族に理解していただけるように説明を行っており、その都度、質問等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関を明示しその説明を行っている。来訪者には利用者の健康状態等を伝えるとともに要望や希望を確認している。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議などの機会に意見・要望を聴き取り、職員間で話し合い、事業所運営や日常のケアに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の不満や意見などを聞き、改善すべきところは都度対応行い、職員会議で意見を話し合えるように努めている。	定例会議や個別面接時のほか、発言し易い環境がつけられ、日常的に意見交換をされている。個別ケア対策やレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場環境などを整備し、職員が向上心を高められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るためにも外部研修への参加や法人内での研修への参加の機会を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の運営会議に参加し、意見交換を行い、他の事業所の職員との交流に努めている。また、地域の交流会に参加することでネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように利用者やその家族との信頼関係づくりを図り、不安など話せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者やその家族から今までの経緯を聴き、今後の要望等を伺いながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やその家族から要望等を聴き、その中より今、必要な支援を見つけ、対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や趣味などを通して、日々の生活の中でお互いの信頼関係を築けるように努める		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者やその家族からよく話を聴き、話し合いに努め、家族とともに利用者を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人や知人の訪問や季節行事のための帰宅などができるように支援に努めている。	近くの神社に初詣に出かけられたり、季節ごとには花の名所に出かけられるほか、地域の文化祭や同法人の介護老人福祉施設の催事に出かけ、馴染み方々と一緒に楽しめるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や洗濯干し・洗濯たたみなどお互いに協力しながら行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所・契約終了後も利用者やその家族より連絡等あればいつでも相談に応じる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や聞き取り、家族との会話などから、本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に寄り添うことで、思いや意向を把握されている。現在、把握が難しい利用者はいないものの、日々の様々な機会で見られる利用者からの発言や家族からの情報提供を受け、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや家族との面会時など、本人との会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送り・日誌・ケース記録より、ケース会議や職員会議にて状況確認を行い、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人・家族より希望確認に努め、日常生活の中では職員から状況確認に努め、ケース会議などで話し合い、介護計画に反映できるように努めている。	利用者や家族から思いや意向を聞き取り、医師・看護師の意見を含め、職員間で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース会議等で介護計画の情報共有を行い、計画に沿った介護実践を行い、ケース記入をし、介護計画の見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の介護老人福祉施設が近くにあり、季節の行事や催事に参加交流を通じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りなどのイベントなどに参加している。地域防災訓練にも参加している。駐在所にも見守りをしていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聴き、希望の医療機関を受診できるように支援している。また嘱託委にも相談できる関係を築いている。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化時には看護師や主治医に報告・相談・受診できるような体制づくりを築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族と連携を密にし、職員・病院関係者と情報交換ができる体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や体調変化時、家族への説明と同意を十分に行うが、(契約書にも記載あり)職員間でも方針を共有している。	入所時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一をされている。その後も意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・自治会長・民生委員・近隣住民の方の協を得て、年2回訓練を行っている。	定期訓練では、家族や地域の方の協力を得て、台所からの火災発生を想定、初期消火・通報・一時避難場所への誘導訓練に取り組まれている。その他、水や食料、ガスコンロなど、備蓄品の整備を図られるなど、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者を預かる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを行っている。日ごろから利用者のプライバシーを損ねないように配慮している。	利用者への声かけも状況や個々の性格を踏まえ言葉を選び、優しく丁寧な言葉かけに努められるなど、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわぬよう、きめ細かな対応をとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解の合わせた言葉や説明の仕方を考慮し、本人の思いや希望が表せるように支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で一人ひとりの希望するペースに沿って支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事に合わせたその人らしい身だしなみやおしゃれができるように声掛けや支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は一つのテーブルを囲みながら、皆で食事できるように支援し、準備や片付けもできることは協力してもらうようにしている。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。自家菜園で育てた野菜や鶏卵が食材として提供されるほか、催事には好きなお寿司を出前するなど、利用者の思いと食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は確認を行い、毎日記録をしている。変化時など職員間で話し合い、一人ひとりの状態に合わせた食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらうように声掛けを行い、支援している。状態によって歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄パターンに合わせた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握して適宜、声掛けを行うほか、利用者個々に事前に誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアに取り組み、失敗防止やオムツ類の使用量削減及び自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便チェックを行い、体調変化に気をつけながら、食事・水分量の確認を行い、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)午前中、入浴支援を行っている。入浴前にはバイタルチェックや水分補給を行っている。	入浴拒否の方には無理強いすることなく、時間や声かけ職員を替えるなど、工夫し支援をされている。また、滑り止めマットやバスボードの活用など、安全対策が取られた支援に取り組みされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干し、定期的にシーツ類の洗濯を行い、季節に応じたリネン提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が必ず確認している。症状の変化時は主治医と相談確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事への参加、レク活動を通じて、利用者一人ひとりの役割や楽しみなどをみつけていただき、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・外気浴・買い物・地域行事への参加など可能な限り、本人の希望を尊重し、家族の支援を受けながら外出ができるように支援している。	事業所周辺での散歩、園庭での外気浴のほか、初詣や季節の花見、地域の催事に出掛けられている。また、利用者の希望に沿った買物など、外出の機会を多く持つよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金を所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っている。希望があればかけることはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有区間には季節の花などを飾ったり、利用者の作品など掲示し、居心地がよいように工夫している。縁側からは四季折々の花などが楽しめるようになっている。	共用スペースには直近に迫った夏祭りの神輿や提灯などが飾られているほか、キッチン併設により、調理の音や匂いなど、生活感が感じられる備えとなっている。縁側には長椅子、庭にはベンチが置かれ、利用者が庭を眺めながら、落ち着いてゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールの座席は気の合った利用者同士が座れる工夫をしたり、一人になれる空間(居場所)も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた日用品や自分の作品を飾ったりしており、居心地の良い空間作りをしている。	馴染みの寝具やタンス、家族の写真、自筆の書や塗り絵などが持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を情報共有し、その人らしい生活が送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名:羽生しもくせいの里

目標達成計画

作成日: 令和 2年 9月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害は予想以上の場合があり、また職員、利用者の入れかわりがあったため、災害対策のとりくみを再確認する必要がある。	訓練等、災害対策への取り組みを再検討する。	・職員間で話し合いを持ち、計画書の再確認。 ・食料品、防災機材(備品リスト)の再確認 ・連絡体制の整備、連絡方法の再確認。 ・地域や各関係機関との体制の再確認。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。